

②  
フィルム

聖徒たちと歩む聖書 ~10~  
アブラハム その2

「メシアの影を  
追いかけて」

創世記13~14章 試練と祝福

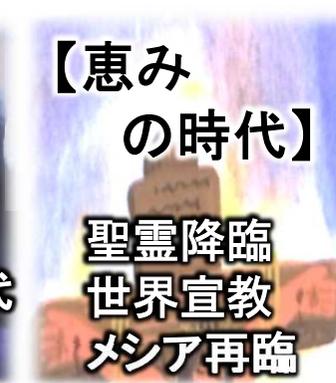
## 【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
- I. ロトとの別れ
- II. 帝国の侵略とロト奪還
- III. メルキゼデクの祝福
- IV. まとめと適用

私たちの王であり祭司  
主イエス・キリストを

仰ぎ見よう





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの  
塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

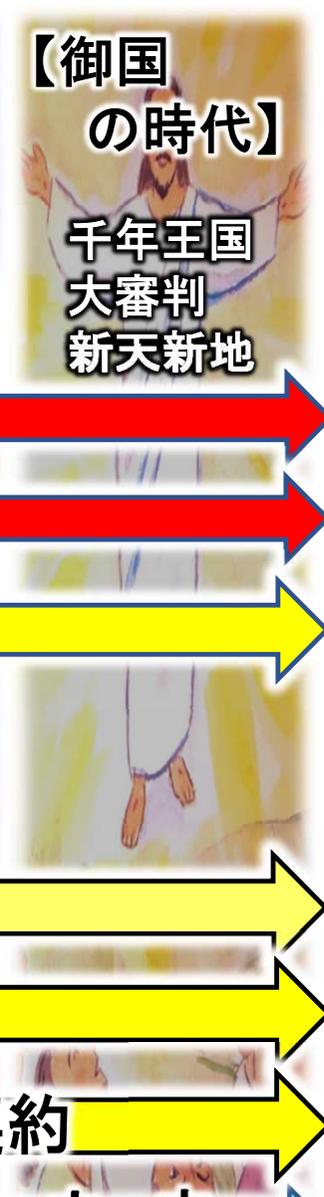
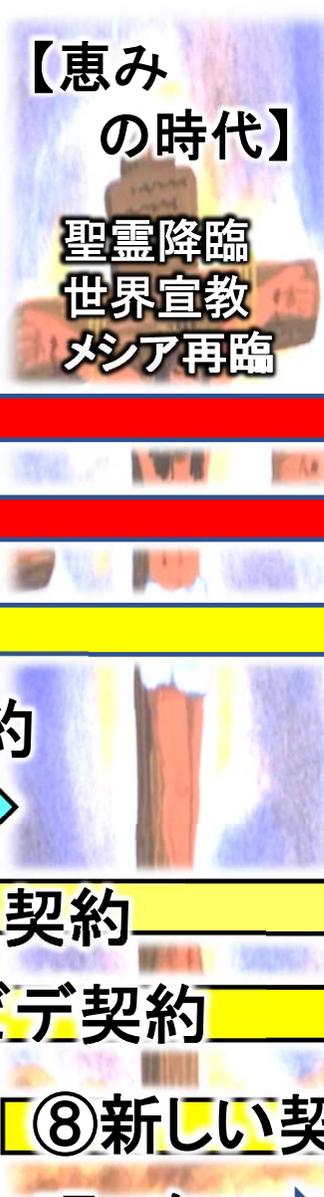
⑧新しい契約

【ディスペンセーション】  
七つの時代区分と  
八つの契約

過去

現在

未来



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

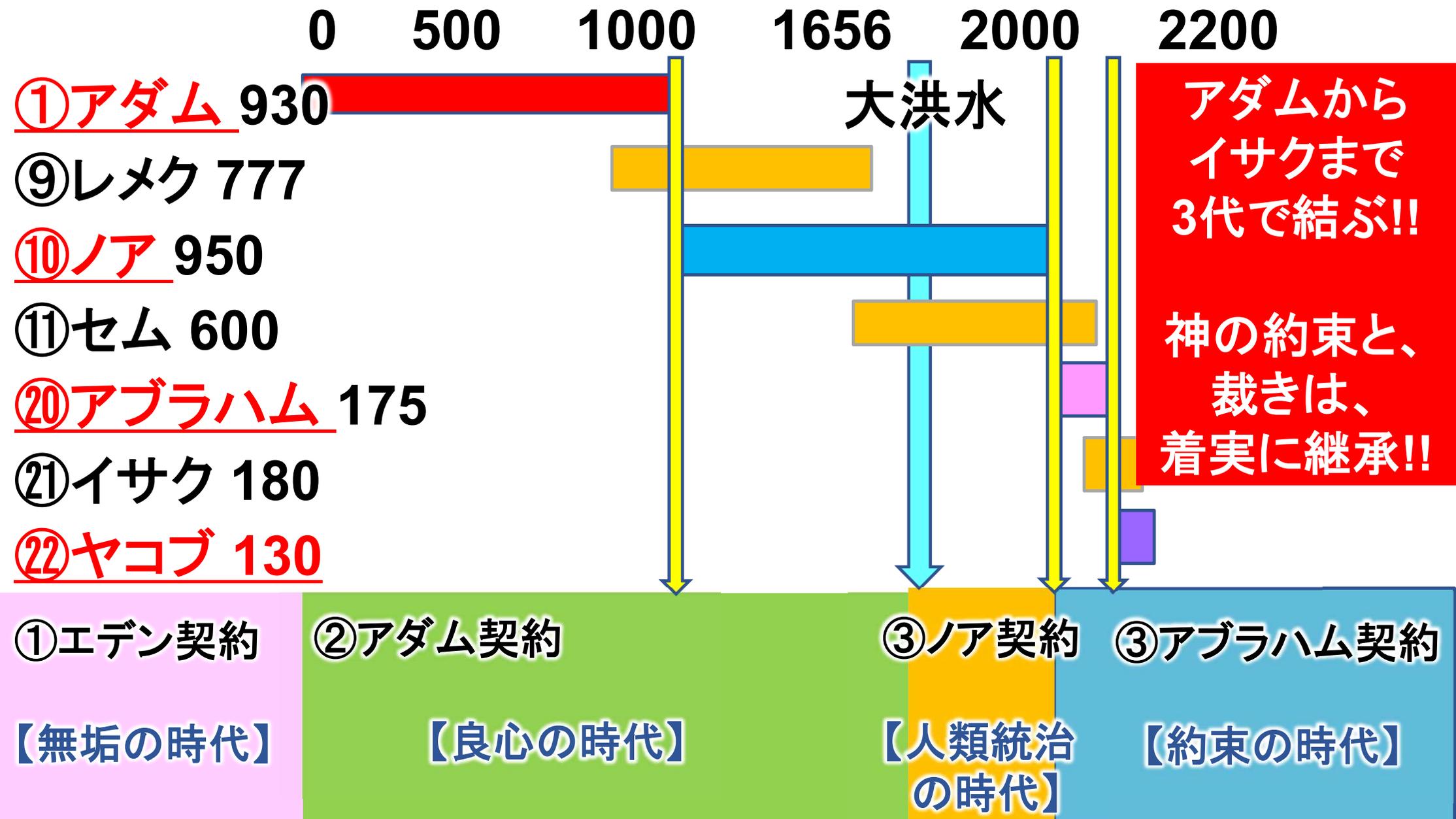
⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来



## 【創世記11章までに明らかになったこと】

①人類は、たった一つの約束も守れなかった。



②人類は、**良心**によって、世界を正しく治めることはできなかった。



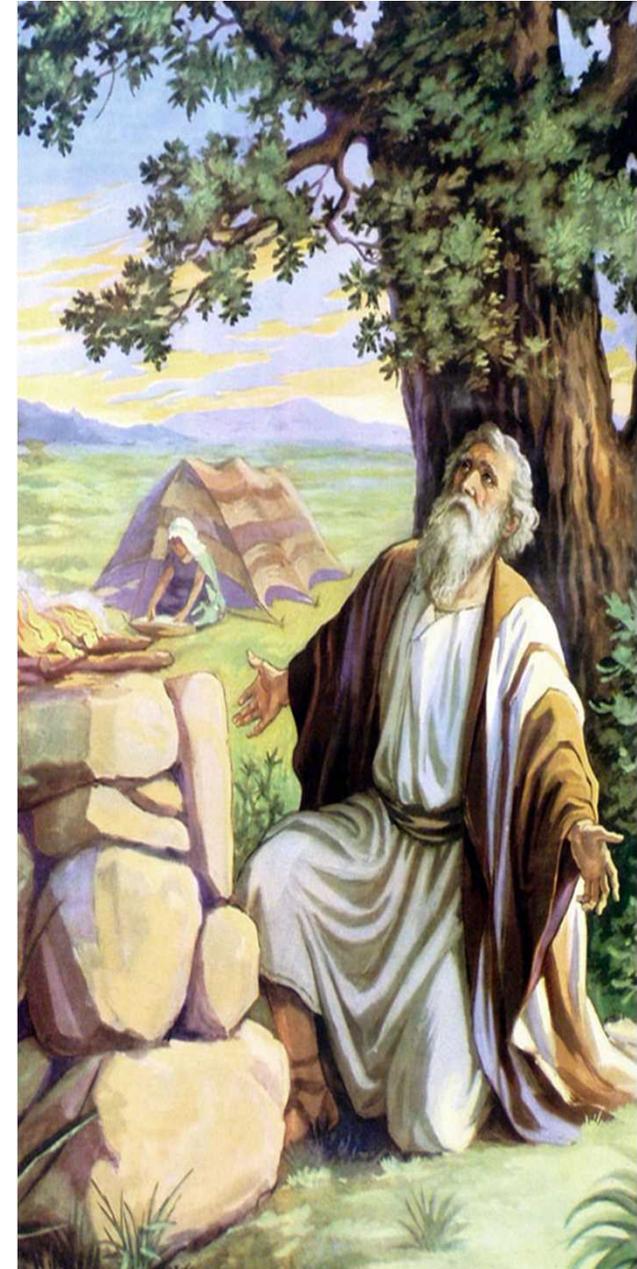
③人類は、**組織**によっても、世界を正しく治められなかった。

人間は、自分の努力で、神との平和を作り出すことはできない!!  
人類の希望は、神が約束された女の子孫、メシアにある!!

神の計画が、いよいよ、アブラハムから動き出す!!

## 【アブラムの召命】 12章のまとめ

- 行きなさい、という神の命令に応え、行き先も分からぬまま、ウルの町を旅だったアブラム。
- 75歳にして辿り着いた、呪われた民カナンの地。アブラムはそこで、最初の礼拝を献げた。
- 飢饉のため、約束の地を離れエジプトに逃れたアブラムは、妹と偽らせた妻サライを、エジプト王パロに召しいられてしまう。
- 神の介入により、サライは無事助け出された。過ちにも関わらず、守られ、富まで得たアブラム。
- 一方的な神の無条件の約束が、アブラムを守ったのだった。



【アブラハム契約】 12章で約束されたこと

■アブラム個人への祝福■

多くの民族がアブラムから生まれ、  
アブラムの名が讃えられる。

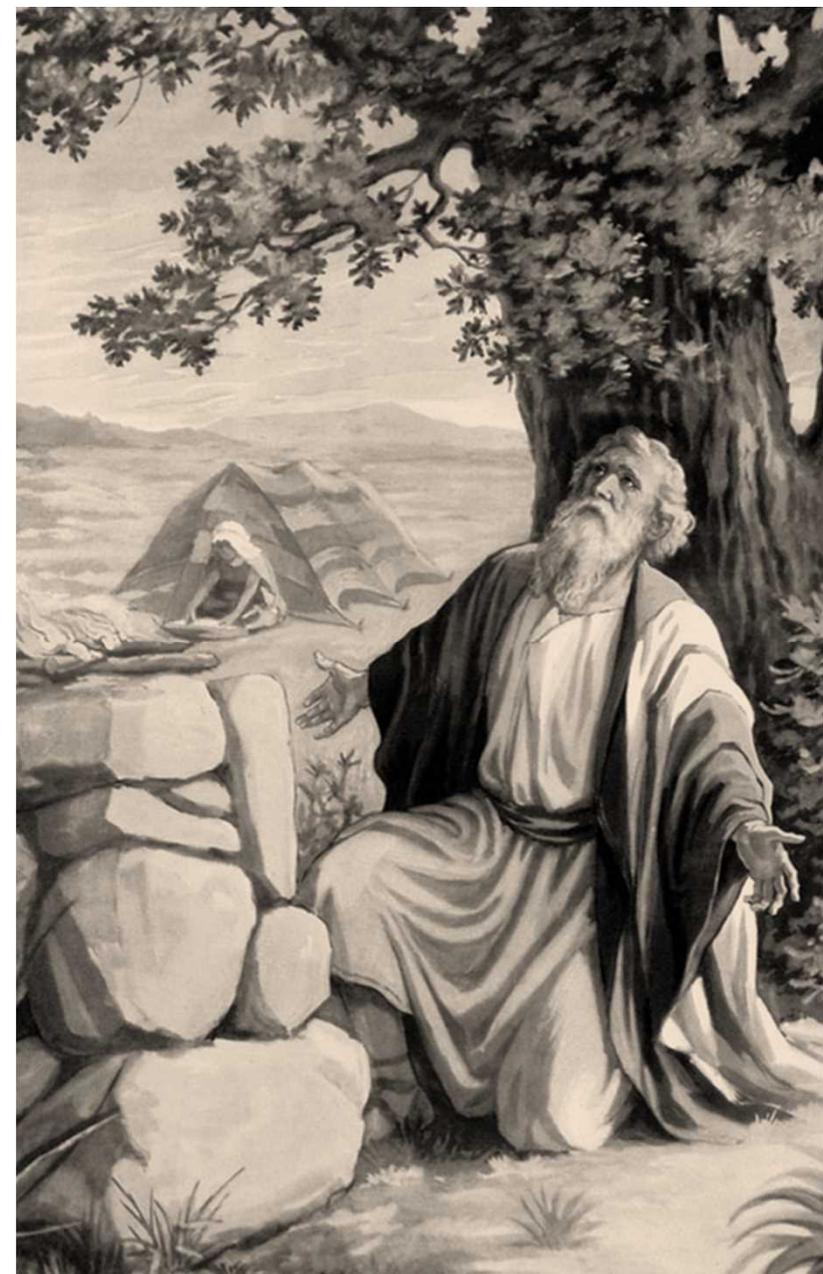
■アブラムと子孫を守る付帯条項■

アブラムを呪う者には呪いが、  
祝福する者には祝福が与えられる。

■メシアによる全民族への祝福■

「地上のすべての民族は、  
あなたによって祝福される。」

⇒アブラムの子孫からメシアが誕生する。





# I. ロトとの別れ

創世記13:1～18

ネゲブ山地

**【約束の地への帰還】 創世記 13:1~2**

それで、アブラムは、エジプトを出て、ネゲブに上った。  
彼と、妻のサライと、すべての所有物と、ロトもいっしょであった。  
アブラムは家畜と銀と金とに非常に富んでいた。

主に守られて、危機を脱し、多くの富まで得たアブラム  
しかし、その富が、思わぬ火種をもたらすことに....。



## 【原点回帰】 創世記 13:3～4

彼はネゲブから旅を続けて、ベテルまで、すなわち、ベテルとアイの間に、初めに天幕を張った所まで来た。そこは彼が以前に築いた祭壇の場所である。その所でアブラムは、【主】の御名によって祈った。

### ■カナンの地で最初に祭壇を築いた地

➡ エジプトでの失敗の後、原点に立ち返った。

### ■主の御名によって祈る

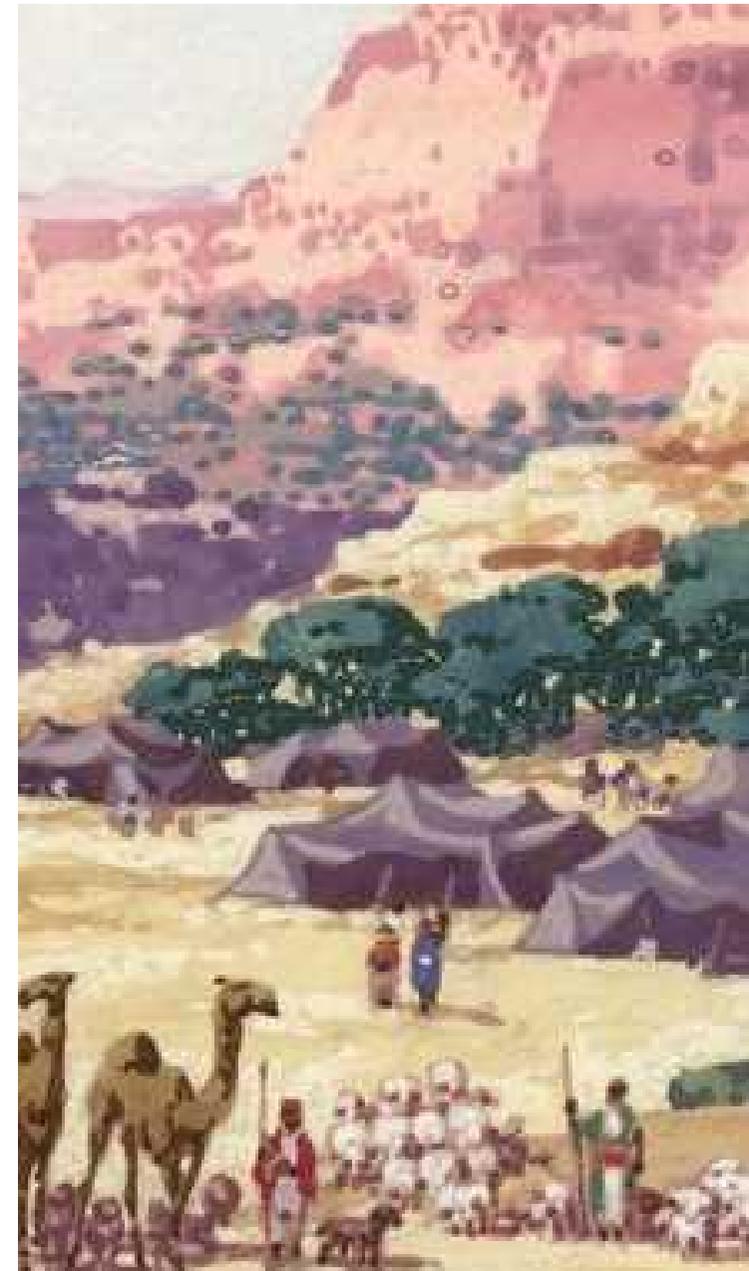
➡ 公の礼拝をささげた。



## 【問題の根】 創世記 13:5~7

アブラムといっしょに行ったロトもまた、羊の群れや牛の群れ、天幕を所有していた。その地は彼らがいっしょに住むのに十分ではなかった。彼らの持ち物が多すぎたので、彼らがいっしょに住むことができなかったのである。そのうえ、アブラムの家畜の牧者たちとロトの家畜の牧者たちとの間に、争いが起こった。またそのころ、その地にはカナン人とペリジ人が住んでいた。

- カナン人の都市国家群の狭間での遊牧生活。  
自由に移動できる地は限られていた!!
- エジプトで得た奴隷も加え、大所帯に!!
- アブラムとロトの奴隷同士で、争いが!!  
偶像崇拜の墮落した民、カナンの悪影響も!!



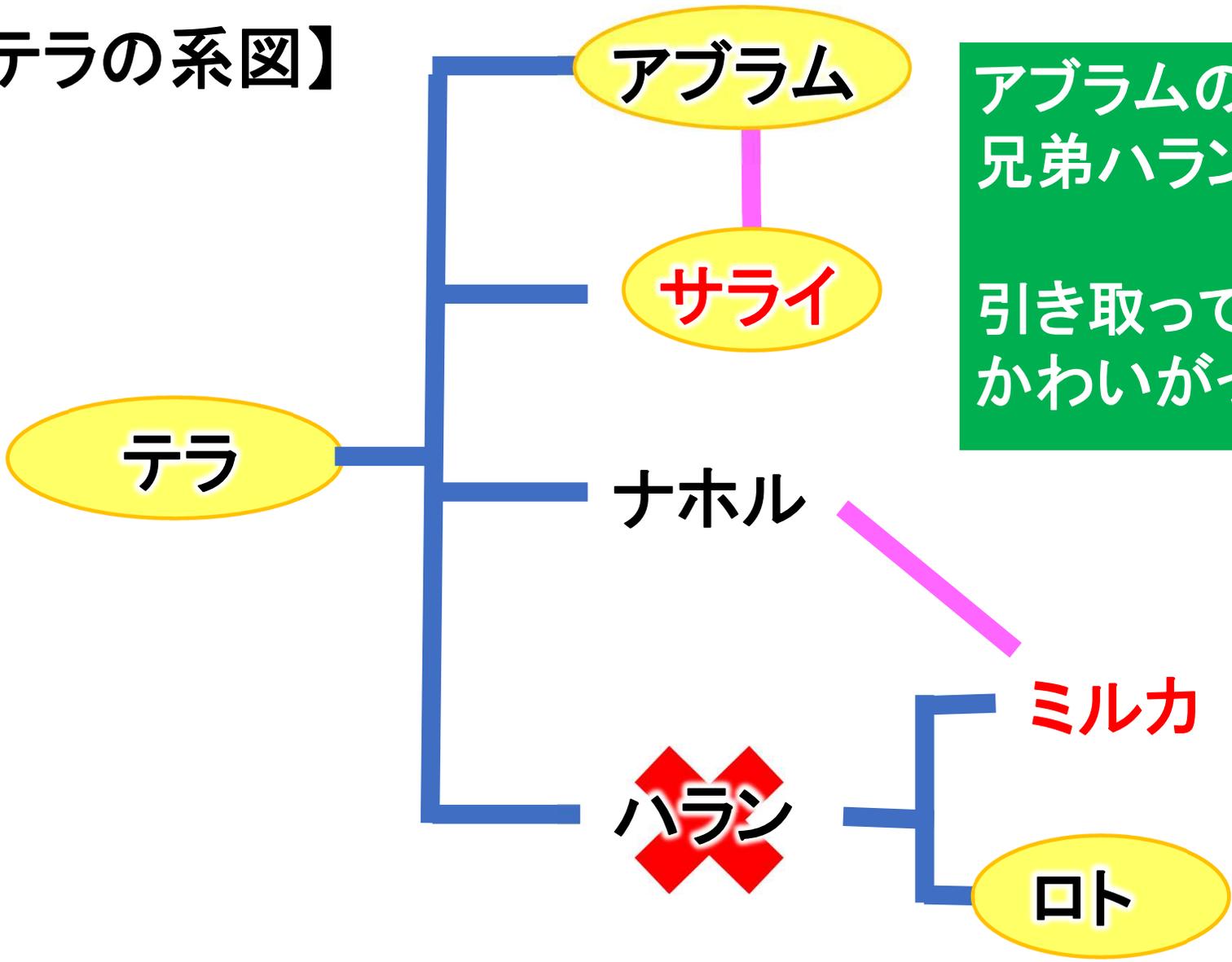
## 【アブラムの提案】 創世記 13:8～9

そこで、アブラムはロトに言った。「どうか私とあなたとの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちとの間に、争いがないようにしてくれ。私たちは、親類同士なのだから。全地はあなたの前にあるではないか。私から別れてくれないか。もしあなたが左に行けば、私は右に行こう。もしあなたが右に行けば、私は左に行こう。」

- 争いを避けることを優先したアブラム。
- 選択権も、甥ロトに譲った。



【テラの系図】



アブラムの兄弟ハランは、ウルで死去。  
引き取って息子同様にかわいがっていたのがロト。

## 【ロトの選択】 創世記 13:10~11



ロトが目を見てヨルダンの低地全体を見渡すと、【主】がソドムとゴモラを滅ぼされる以前であったので、その地はツォアルのほうに至るまで、【主】の園のように、またエジプトの地のように、どこもよく潤っていた。

それで、ロトはそのヨルダンの低地全体を選び取り、その後、東のほうに移動した。こうして彼らは互いに別れた。

【墮落したソドム】 創世記 13:12～13

アブラムはカナンの地に住んだが、  
ロトは低地の町々に住んで、  
ソドムの近くまで天幕を張った。  
ところが、ソドムの人々はよこしまな者で、【主】に対しては非常な罪人であった。

■ 呪われた民、カナンの地でも、  
特に墮落した町がソドムだった。



## 【神の約束】 創世記 13:14～15

ロトがアブラムと別れて後、【主】はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。

- さあ ...ナー。Please. 嘆願の言葉。  
「どうか目を上げて、...見渡してくれないか」  
アブラムの生涯で、三度使われている!!  
➡人の理解を超えた約束を、優しく告げる主。
- まず、広大な土地の授与が約束される!!





約束の地、そのものが、  
巨大な視覚教材!!

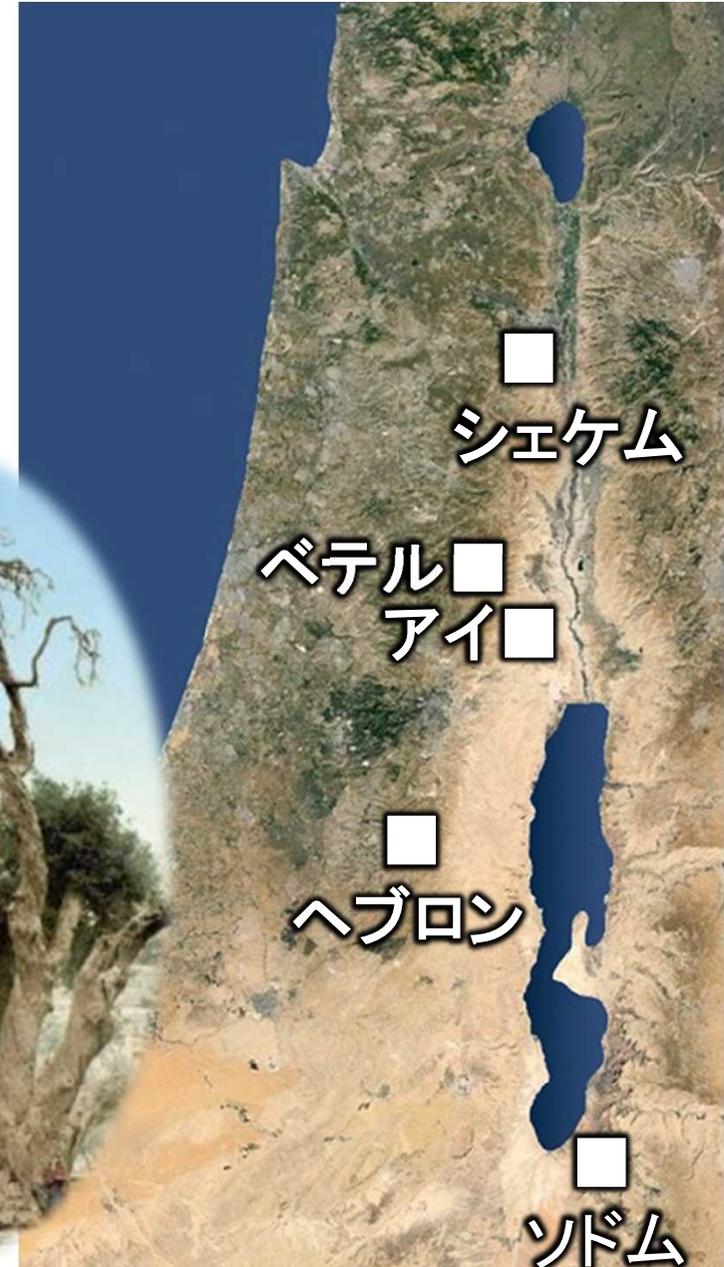
## 【子孫の約束】 創世記 13:16~17

わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。」

## 【再出発】 創世記 13:18

そこで、アブラムは天幕を移して、ヘブロンにあるマムレの檜の木のそばに来て住んだ。そして、そこに【主】のための祭壇を築いた。

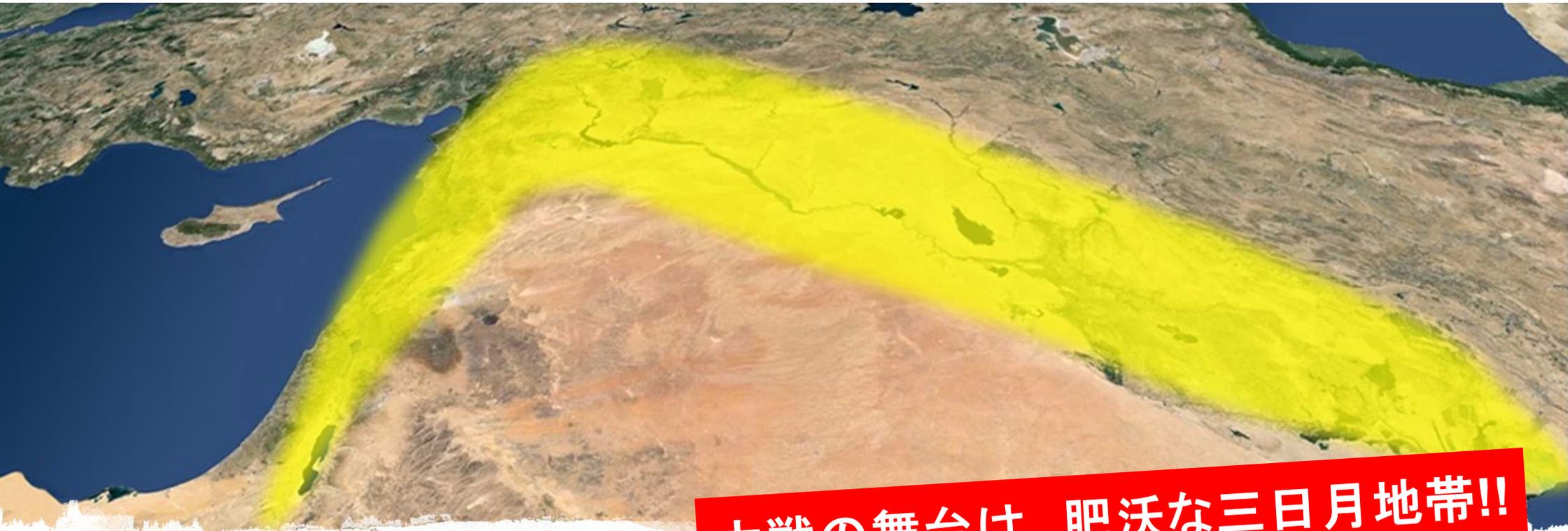
- 主の約束の上に立ち、  
公の礼拝をささげたアブラム。
- こうして、  
アブラムの約束の地での生活が  
再出発した。



## Ⅱ. 帝国の侵略とロト奪還

創世記14:1～12





**大戦の舞台は、肥沃な三日月地帯!!**

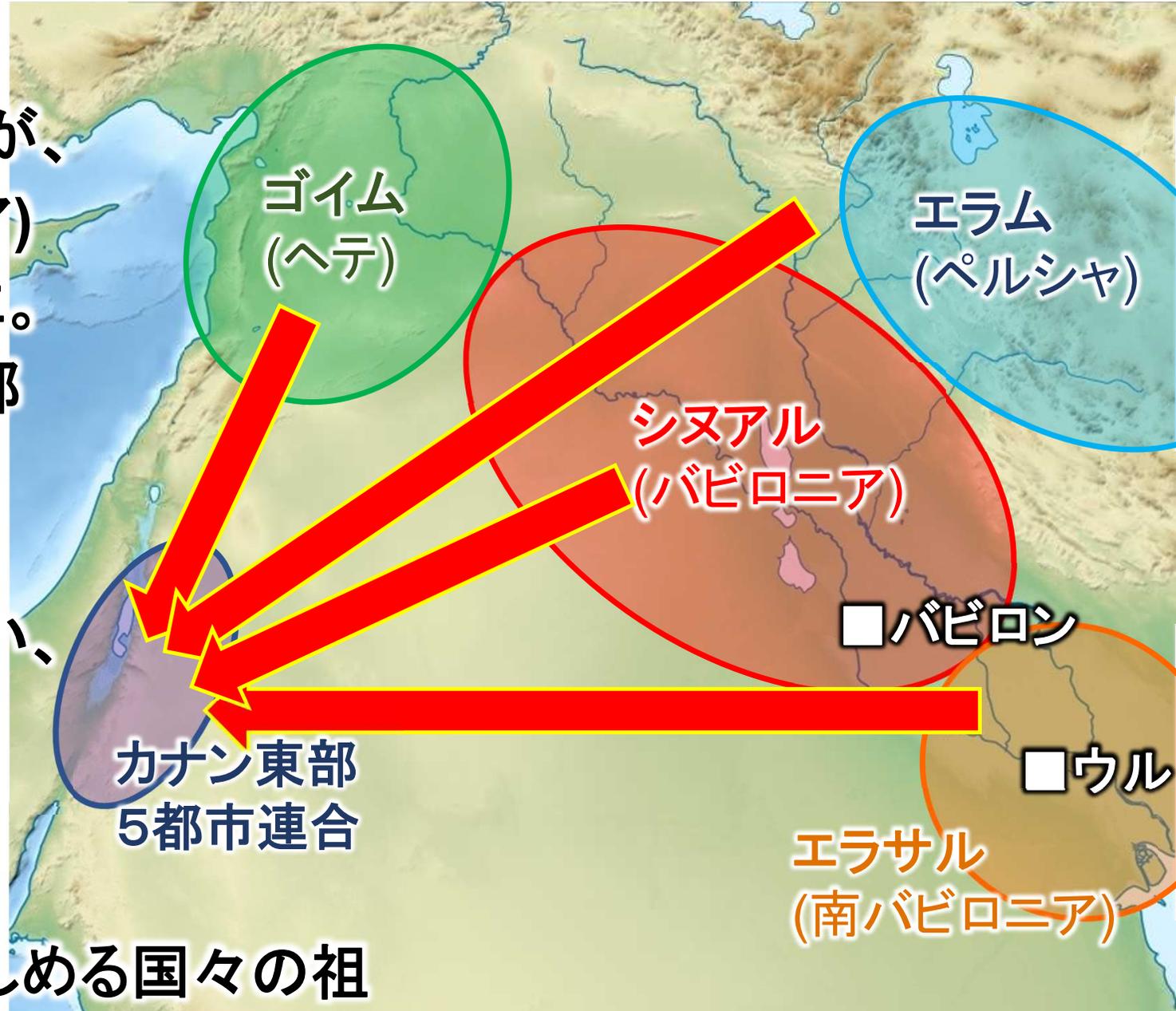
**【大戦】 創世記 14:1~2**

さて、シヌアルの王アムラフェル、エラサルの王アルヨク、エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアルの時代に、これらの王たちは、ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アダマの王シヌアブ、ツェボイムの王シェムエベル、ベラの王、すなわち、ツォアルの王と戦った。

## 【大戦の内容】

- 北方の大国シヌアルが、  
(後のバビロニア)  
カナン地方を支配下に。
- 13年目に、カナン東部の  
5都市連合が反逆。
- 14年目、シヌアルは、  
四帝国の連合軍を率い、  
これを壊滅させた。

※北方の帝国は、  
後にイスラエルを苦しめる国々の祖



## 【蹂躪されたカナン】 創世記 14:5～10

- シヌアルの王ケドルラオメル率いる帝国連合は、カナン東部～南部の都市を撃破。
- カナンの5都市連合軍は、死海の西、シディムの谷で帝国軍との最終決戦に。
- ソドムとゴモラの王は、逃亡中、穴に落ちて死に、他の王も敗走した。⇒完敗

## 創世記14:11～12

そこで、彼らはソドムとゴモラの全財産と食糧全部を奪って行った。彼らはまた、アブラムのおいのロトとその財産をも奪い去った。ロトはソドムに住んでいた。



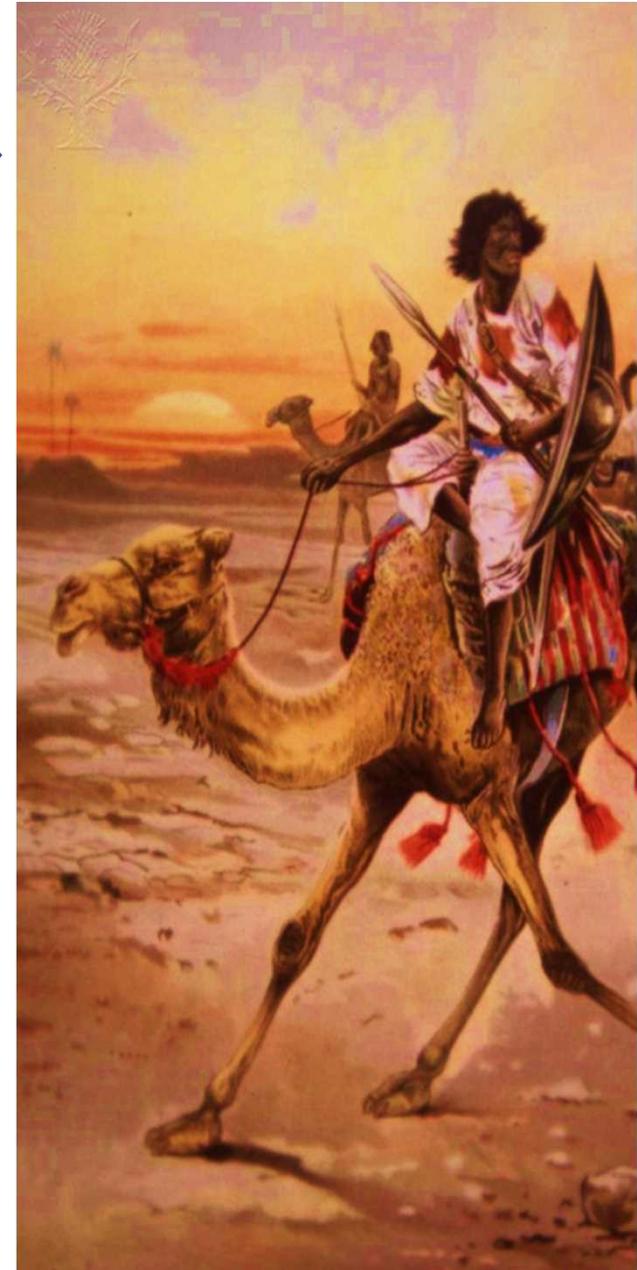
## 【アブラムの追撃】 創世記 14:13～16

ひとりの逃亡者が、ヘブル人アブラムのところに来て、そのことを告げた。アブラムはエモリ人マムレの檜の木のところに住んでいた。マムレはエシュコルとアネルの兄弟で、彼らはアブラムと盟約を結んでいた。

アブラムは自分の親類の者がとりこになったことを聞き、彼の家で生まれたしもべども三百十八人を召集して、ダンまで追跡した。

夜になって、彼と奴隷たちは、彼らに向かって展開し、彼らを打ち破り、ダマスコの北にあるホバまで彼らを追跡した。

そして、彼はすべての財産を取り戻し、また親類の者ロトとその財産、それにまた、女たちや人々をも取り戻した。



## 【アブラムのロト奪還作戦】

- 信頼できる盟友と、  
訓練された精鋭318名で帝国軍を猛追。
- ダマスコで、夜襲し、勝利をおさめた。

■ ロトと親族、ソドムから奪われた  
人々や財産までも取り返した!!

■ ヘブル人(放浪者)アブラムが、  
一夜にしてカナンの地の英雄に!!

主がアブラムを助け、勝利に導いた!!



# Ⅲ. メルキゼデクの祝福

～王にして祭司 メシアの影～

創世記14:17～24



オリーブ山 (1900年)

## 【アブラムの凱旋】 創世記 14:17

こうして、アブラムがケドルラオメルと、彼といっしょにいた王たちとを打ち破って帰って後、ソドムの王は、王の谷と言われるシャベの谷まで、彼を迎えに出て来た。

■ 奇跡的勝利をおさめ、一夜にしてカナンの英雄となったヘブル人(放浪者)アブラム

※ソドムの王 ...戦死した王の王子が即位!?

※王の谷(シャベの谷) ...ケデロンの谷

エルサレムとオリーブ山の間  
の谷。  
(大艱難時代に異邦人が裁かれる地)



## 【メルキゼデク】 創世記 14:18

さて、シャレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。

※シャレム(サレム) ...後のエルサレム

■メルキゼデク ...正体不明。家系も不明。

ユダヤ伝承では、セツとも!!

※いと高き神の祭司 ...コーヘン。祭司。初出。

偶像礼拝者ではなく、真の神の祭司だった。

■祭司とは? ⇒神と人との間の仲介者

■罪ある人は、仲介者なくして神の前に立てない!!

⇒聖書の原則



## 【メルキゼデクの祝福】 創世記 14:19～20

彼はアブラムを祝福して言った。「祝福を受けよ。アブラム。天と地を造られた方、いと高き神より。あなたの手に、あなたの敵を渡されたいと高き神に、誉れあれ。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。

■メルキゼデクは、神の御名により、アブラムを祝福し、神を讃えた。

⇒祭司としての理想の姿。メシアのひな形。

■アブラムは、戦利品の十分の一を献げた。



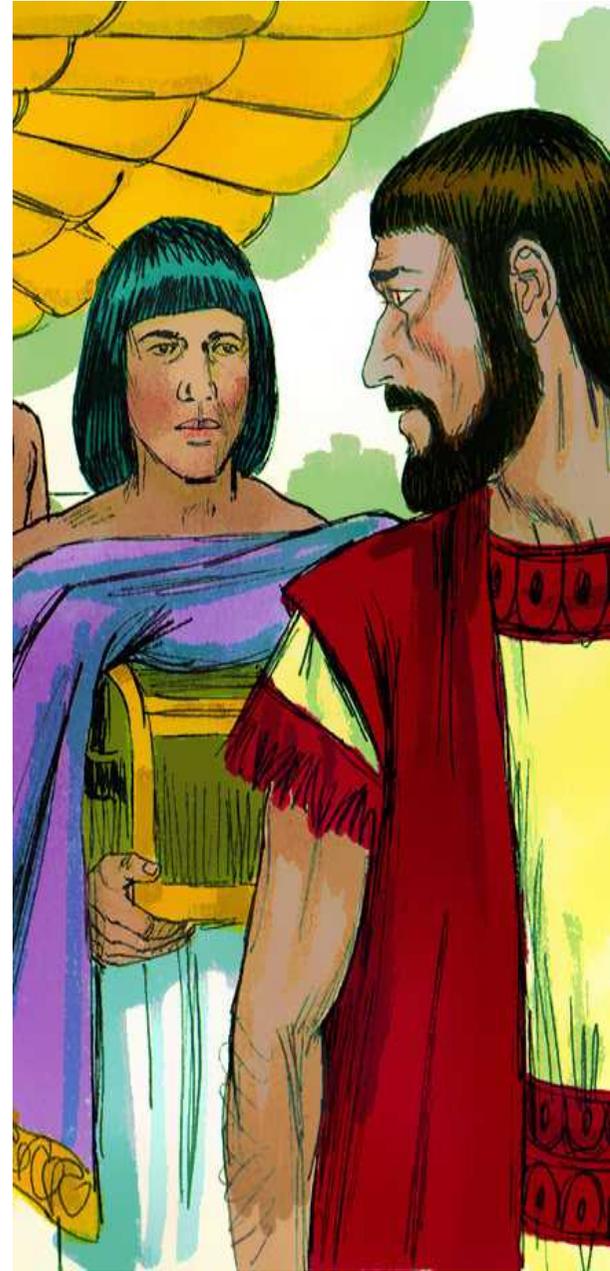
## 【狡猾なソドム王】 創世記 14:21～24

ソドムの王はアブラムに言った。「人々は私に返し、財産はあなたが取ってください。」

しかし、アブラムはソドムの王に言った。「私は天と地を造られた方、いと高き神、【主】に誓う。糸一本でも、くつひも一本でも、あなたの所有物から私は何一つ取らない。それは、あなたが、『アブラムを富ませたのは私だ』と言わないためだ。

※本来、財産も人も、奪還したアブラムのもの。

■ 主の恵み、御名の栄誉をかすめ取り、アブラムを自分の側に引き込もうとした、ソドム王と、アブラムは明確な一線を引いた。



## 【狡猾なソドム王】 創世記 14:24

ただ若者たちが食べてしまった物と、私といっしょに行った人々の分け前とは別だ。アネルとエシュコルとマムレには、彼らの分け前を取らせるように。」

### ■ 明確な境界線を引いたアブラム

⇒ 神への反逆者ソドム王に対して

⇒ 神に献身した自分自身と、他者の間に

### ■ 自分は、何者か？ 何者として生きるのか？

神の民としての自覚を育まれていくアブラム



# IV. まとめと適用

私たちの王であり祭司

主イエス・キリストを仰ぎ見よう



## 【アブラムの歩みを振り返る】

- エジプトの失敗から、再び信仰の原点、神の約束に立ち返った。
- 群れに生じた問題に、神を信頼し、富に執着せず、へりくだって対処した。
- 途方もない土地と子孫の約束を信じるよう主に促され、受け取った。
- 愛する甥のロトの危機に立ち上がり、猛然と戦った。
- 危機からカナンを救い、この地の神の祝福をもたらした。  
その一方、世の誘いは、完全に退けた。

## 【アブラムが見た、メシアの影 メルキゼデク】

■ サレムの王であり祭司である、メルキゼデクは、来たるべきメシアの型。

「母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっている。ヘブ7:3」

■ 罪を犯した人が、神との和解を果たし、回復されるためには、人と神とを、つなげてくださる、仲介者が必要。  
その仲介者は、完全に人であり、完全に神でなければならない。

■ 神と等しい神の子でありながら、人となられ、罪を犯さず、十字架で贖いを成し遂げられた。このイエスこそ、真実の大祭司。

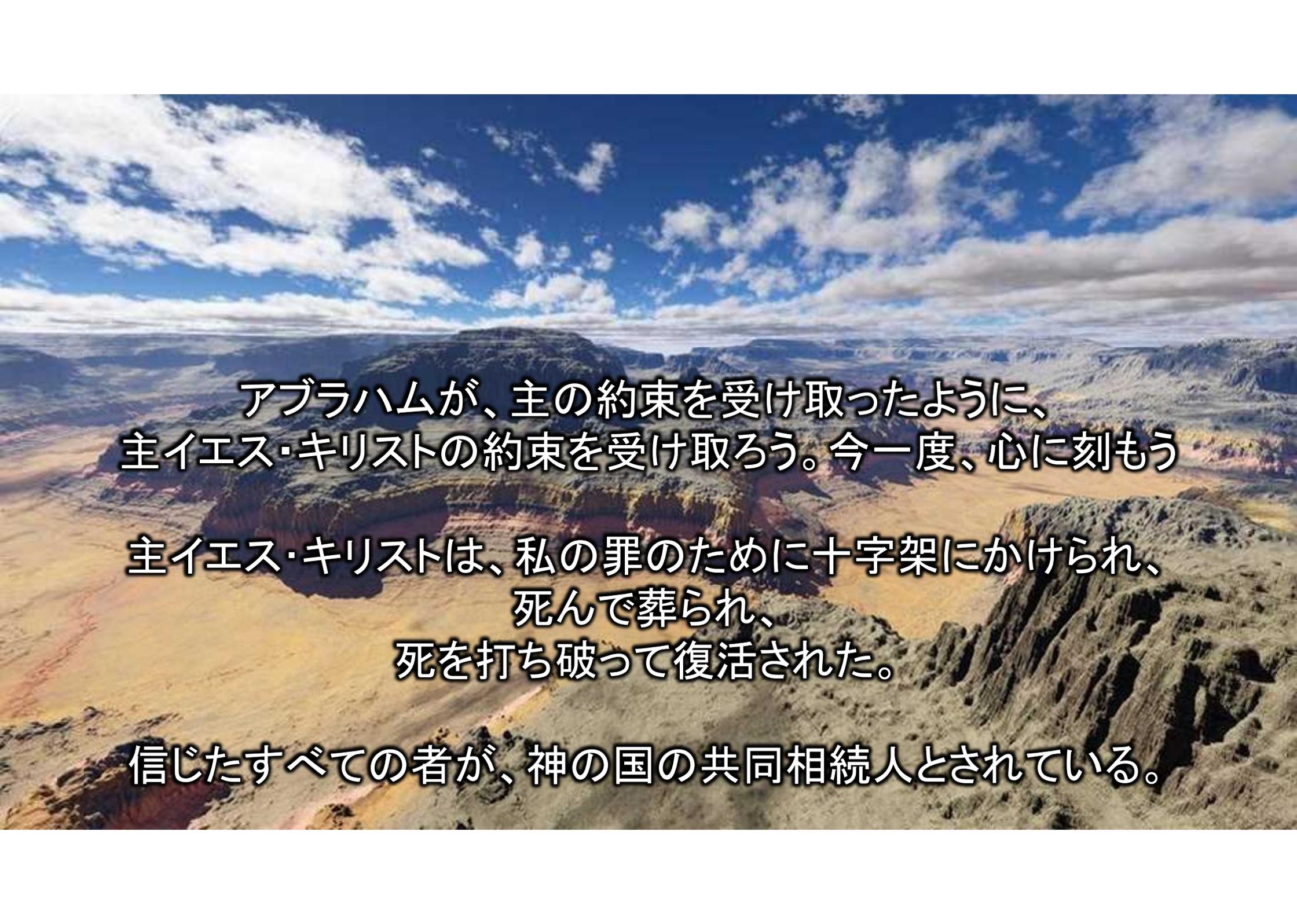
## 【イエス・キリストこそ、完全な仲介者 私たちの大祭司】

### ヘブル人への手紙 4:14~16

「さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」



アブラハムが、主の約束を受け取ったように、  
主イエス・キリストの約束を受け取ろう。今一度、心に刻もう

主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、  
死んで葬られ、  
死を打ち破って復活された。

信じたすべての者が、神の国の共同相続人とされている。

「天のお父さま。

あなたは、あなたに逆(さか)らい続(つづ)けていたわたしを、  
主イエスによってゆるし、和解(わかい)してくださいました。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

おりにかなった助(たす)けを、わたしたちの

大祭司(だいさいし)イエスが あたえてくださいます。

アブラムのように信頼(しんらい)して、あゆませてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」